



## 天城学習発表会によせて

校長 守野和弘

11月には天城学習発表会があります。天城学習は、持続可能な社会のための教育（ESD）その



のものです。天城学習の原点は、「ツゲ峠」という場所です。ツゲ峠では、木が立ち枯れています。表土が出てしまっています。これらは増えすぎたシカが、ブナの木を食べ、地面のササやコケなどを食べ尽くしてしまったからです。そこに四角い柵があります。そこだけ植物が生えています。今から11年前、天中生の先輩たちが作ったシカ柵です。「このままではシカの食害で全て立ち枯れてしまい、ブナの森がなくなってしまう。」「表土も削られてしまい、保水力も地盤

も弱くなり、災害につながる。」「森林管理署と協力して、少しでもシカの食害を防ごう。」もちろん先生たちの協力もありましたが、自分たちで行動したのです。シカ柵は、森のほんの一部ですが、ブナの幼木をはじめ在来植物が育っています。シカ柵には効果があります。では森全体でシカの食害をなくすための方法はないのでしょうか？

森には、もう一つ大きな問題があります。杉、檜の人工林が全国的に放置されていることです。そもそも建築材として植林してきましたが、安価な外国産林の輸入が増え、売れなくなり、放置されていきました。間伐もしないため、細く弱い杉、檜で利用価値もなく、根も張りません。根元に日光が届かず、低木も育たずに表土が出ます。そして、土砂災害を起こしやすくします。

「シカ、イノシシの食害を減らしたい。」「それには、猟をして肉加工し、高級なジビエ料理にすればよい。」「鹿革を流通するように産業化すればよい。」しかし、問題があります。猟師されている方の減少、高齢化があります。「原生林の枯渇、人工林の放置をなくしたい。」それには、やはり猟が必要です。また、効果的なシカ柵等の開発が必要です。間伐や国産林の利用を促進、また間伐材を細かくしてバイオマス発電することも考えられます。

猟や林業従事者の若返りが必要です。機械化、企業経営なども進んでいるようです。また、地球、地域と共に生きるという価値観の転換も必要です。

価値観の転換のヒントとして、昔の人の生き方、「里山利用」を紹介します。里山は、家の近くにあり、クヌギなど、成長の早い木を植え、それを伐採して薪や炭にして燃料にします。切り株から新しい芽が生え、成長させます。落ち葉は腐葉土となって田畑の堆肥となり、米や野菜の収穫につながります。そしてまた大きくなったら伐採します。場所をかえつつ繰り返し行います。ここには、ほぼお金のやりとりはありません。また、クヌギやタケを燃やしても、もともと大気中の二酸化炭素を利用して育ったのですから、木やタケが大気からもらった分を大気に返すだけです。環境にもやさしい生活です。さらに、竹はかごや畑の支柱などの材料になったり、タケノコを収穫できたりします。これらを再生できないでしょうか。天城の中にも実践者はいらっしゃいます。

天城学習は、「ふるさと天城がいつまでもすばらしい故郷であるためには、どうしていったらよいだろうか」について考え、提案し、できる限り実践につなげてみることです。あなた自身が、または誰かとつながってできることはありませんか。

# 学校統合を控え、中伊豆中学校と合唱交流。

10月13日(木)「天城中・中伊豆中合同音楽発表会」が本校の体育館で開催されました。一昨年度より準備が始まり、昨年度も開催予定でしたがコロナ感染防止のため中止となり、今回を迎えました。市内3中学校の2025年度の統合に向けた、交流事業の第1弾です。天城中学校生徒会長、高橋のの夏さんの堂々とした開会の言葉があり、合唱が始まりました。中伊豆中学校110名、天城中学校113名による「ビリーブ」は、心を一つにハーモニーを体育館に響かせました。スローガン「新たな歴史を刻むために」を掲げ、統合に向けた取り組みの合同交流は、とても素晴らしい時間となりました。

8月25日(木)から1ヶ月間、新中学校の校名募集が行われ、第8回「新中学校開校準備委員会」が開催されています。着々と準備が進んでいます。天城中学校の「有終の美」に向け、教育活動に取り組んでいきます。



念願叶い、本日天城中学校と中伊豆中学校の合同音楽発表会を迎えることができました。長い歴史を誇る両校も2年半後には閉校となり、輝かしいその道のりに終止符を打つ時がきました。そして令和7年4月より、修善寺日向(ひなた)の地に新中学校が新たな船出をします。今日ここに集いしみなさんは、それぞれの学び舎で巣立ち、中でも1年生は最後の卒業生となります。

私は、天城中学校が大好きです。最初は登るのさえ辛かった克己坂が今では大好きな場所となりました。3階の渡り通路から眺めると、遥かに天城連山を望み、眼下に天城盆地そして、母なる狩野の流れが悠然と大地を潤しています。雨が止むと、霧がかかり、水墨画のような美しさです。中伊豆中学校にもそんなすてきな場所がきっとあることでしょう。

私は、残り少ない生活の中で、こう思うようになりました。「残り少ないこの学び舎で精一杯生活しよう、たくさん使い込んでやろう、そして隅々まで綺麗にしてやろう、そして母校に誇りを持って巣立っていこう」と。そして、新中学校で新たな生活をスタートさせる後輩たちには、「天城の、そして中伊豆のプライドをそれぞれが胸に刻み、培ってきた実力をさらに伸ばし、堂々と歩んでほしい。何よりも天城色、中伊豆色を忘れないでほしい」と。今日は初の合同音楽発表会です。それぞれの学年がクラスが、そして縦割りが、練習を重ねてきたそれぞれの愛おしい曲にそれぞれの想いを載せ、正々堂々と曲に対峙し、この体育館に魂の言霊(ことだま)を響かせてください。残り少ない両校ですが、来年そして再来年とこの会を刻み、新中学校の歌声は、天城のそして中伊豆の仲間がリードする、そう言わしめる新たな伝統を築いていきましょう。



それでは、第1回天城中学校・中伊豆中学校合同音楽発表会を開催いたします。

生徒代表 天城中学校生徒会長